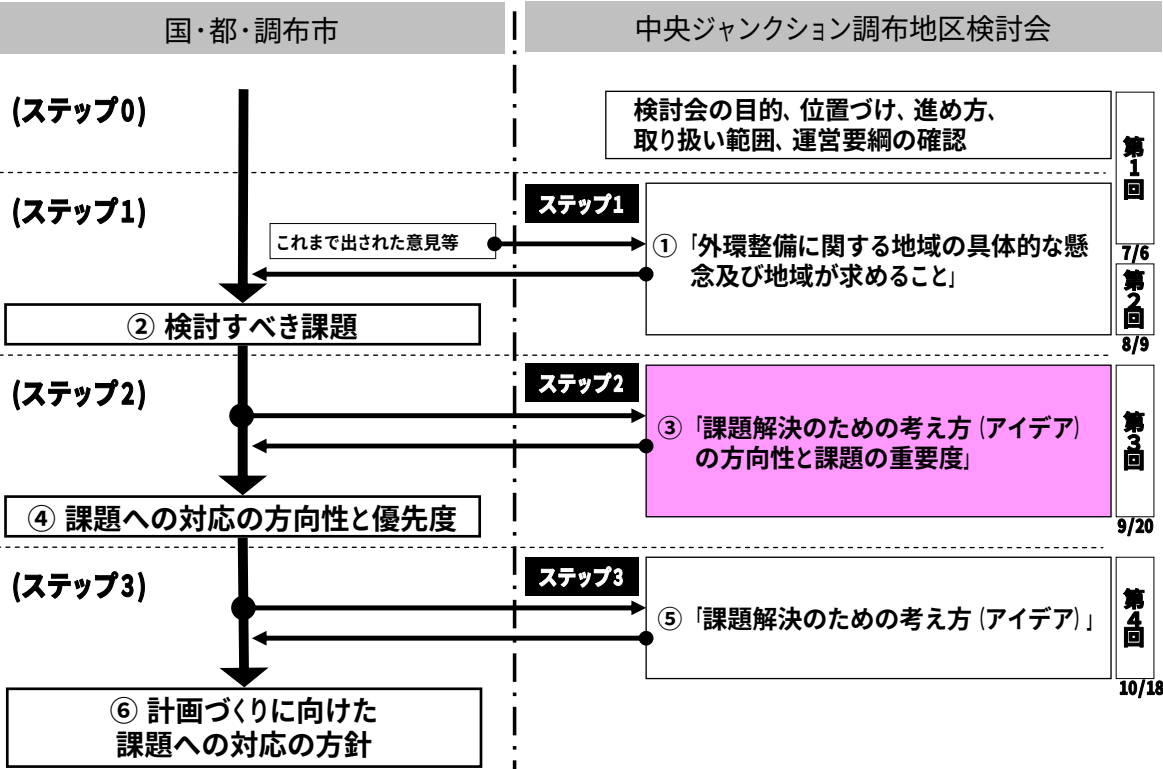


② ステップ 2-1

課題解決のための考え方（アイデア）の方向性と課題の重要度

- メンバーが議論した内容と、課題解決のための考え方の方向性を掲載しています。
- 課題解決のための考え方の方向性は、各グループの進行役が、これまでの議論を踏まえてまとめたものです。



中央ジャンクション調布地区検討会

課題解決のための考え方(アイデア)の方向性と課題の重要度

【本資料について】

- ・本資料は、中央ジャンクション調布地区検討会ステップ2でのメンバーの議論の成果となります。
- ・この中には、メンバーが議論した内容と、課題解決のための考え方（アイデア）の方向性を掲載しています。
- ・課題解決のための考え方（アイデア）の方向性は、各グループの進行役が、これまでの議論を踏まえてまとめたものです。

中央ジャンクション調布地区検討会 運営事務局

A グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・外環の完成時に合わせて都市計画道路の整備を進めるなどにより、吉祥寺通りの機能確保や交通混雑の緩和を図る。〔計画・工事段階〕
- ・調査段階では問題がないと判断した事項であっても、完成後に問題が起こった際には速やかな対応を行う。〔管理段階〕
- ・用地補償の範囲を再検討し、複数案の提示や事業の早い段階からの対応など、住民に対する丁寧な情報提供や対応を行う。〔調査・計画段階〕
- ・工事期間中及び整備後も含め、住民の不安が解消されるよう十分な情報提供を行う。〔調査・計画・工事・管理段階〕

交通

- ・周辺道路の混雑を緩和し、利便性を確保するために、外環の完成に合わせて三鷹都市計画道路 3・4・11、3・4・12、3・4・13 を整備する。
- ・吉祥寺通りの機能を確保し、地域の交通の利便性を保つために、三鷹都市計画道路 3・4・11 が整備された場合でも、三鷹都市計画道路 3・4・11 につなげるなどによって、現在の吉祥寺通りの機能を確保する。
- ・周辺の交通混雑の緩和や利便性の確保を行うために、外環の整備の大前提として、三鷹都市計画道路 3・4・11 を含む周辺交通の整備を優先的に考えた計画とする。
- ・高速道路の料金を抑えることによって利用促進を図れば、高速道路の利用が増え、周辺部への交通の流入を防ぐための 1 つの策になる。
- ・外環完成後も、工事中も、吉祥寺通りの機能が維持できるように計画を進めてほしい。中央 JCT 上に吉祥寺通りを高架にする検討もしてはどうか。
- ・吉祥寺通りの分断により、周辺へ車が流入するのではないか。これを防ぐために、三鷹都市計画道路 3・4・11 は、外環工事前、工事中、最終と段階的に整備するように計画してほしい。

環境

まちづくり

- ・地域に外環整備のメリットが感じられるようにするために、ジャンクションへのアクセス道路（緑ヶ丘団地→白百合女子大→中央 JCT）を整備してほしい。
- ・東八道路からのアクセスではなく、スマート IC (ECT 専用インターチェンジ) を整備して乗用車だけでも出入りができるような場所をつくれないう。この地域は、中央 JCT ができることによる負担を負うため、高速道路を使用しやすいという恩恵がほしい。
- ・データ上は大丈夫だったということを理由に責任逃れをされてしまい、何の補償もされないのでは困る。計画時には問題がないと考えていた事柄であっても、完成後に影響が出た場合には、補償と対応を行うことが重要である。
- ・都市計画道路の整備によって、地域の生活や景観が大きく変化してしまわないように配慮する。
- ・三日月地域を含めて、地域一帯の交通を分断しないでほしい。三鷹都市計画道路 3・4・11 や調布都市計画道路 3・4・17 は、まだ用地を取得できる保証はないため、三鷹都市計画道路 3・4・11 を、新たに用地買収を行う必要のない環境施設帯を利用して吉祥寺通りにつなげた方が、現在の交通量を処理するのに現実的ではないか。
- ・環境施設帯（ベースマップ緑部）の端は、全て車道を整備しない限り、ここに隣接する住宅地は行き止まりになる。環境施設帯に、車が十分に通行できる車道を整備して吉祥寺通りにつなげれば、住宅地への車の流入を軽減できると思う。
- ・通学路が分断されることを懸念している。三日月地域から緑ヶ丘小学校への通学路を確保してほしい。
- ・吉祥寺通りが分断されることにより、日常生活が不便になるのではないかと懸念がある。三鷹都市計画道路 3・4・11 は、外環ができあがったときに、同時に開通する必要があると思う。しかし、用地の買収などの関係で容易に事業が進まない可能性もあるので、三鷹都市計画道路 3・4・11 の整備と共に、住宅の少ない場所を通したり、環境施設帯を利用するなどによって、吉祥寺通りにつなげてほしい。

安全・安心

- ・雨水対策など、外環が高架案の頃に併せて検討されていた周辺エリアの整備は、計画変更後も対象に入れて考え、外環を整備することで地域にメリットが感じられるようにする。
- ・現在の計画では東八道路にしかインターチェンジがため、出入口付近で渋滞が発生するのではないか。トンネル内で事故が発生した場合、大惨事になりかねない。調布市内にも、スマートIC(ECT 専用インターチェンジ)をつくり、小型車の出入りを可能にしたらいのではないか。

工事中

- ・工事中の土砂は東名側から出したり、多摩川を船で運搬し、羽田の埋立てに利用することで、土砂の搬出のための運搬車両が周辺道路に流入することによる交通混雑や大気への悪影響、振動、危険性の増大などが避けられる。
- ・吉祥寺通りが分断されることにより日常生活が不便になるのではないかと懸念がある。工事中の迂回路をつくる際、吉祥寺方面に抜ける機能を確保して欲しい。

用地・補償

- ・データ上は大丈夫だったということを理由に責任逃れをされてしまい、何の補償もされないのでは困る。計画時には問題がないと考えていた事柄であっても、完成後に影響が出た場合には補償と対応を行うことが重要である。
- ・計画区域内で新たな家屋が建設されることを抑止し、計画推進の妨げになる要素を減らすために、早期に事業化を図り、その情報を周知する。
- ・計画線内および線にかかる地権者だけでなく、計画線付近の地権者に対しても補償を行えば、用地買収の時間が短縮でき、事業の早期実現が可能になる。
- ・現在提示されている案では、補償の対象に所有地の一部しかかからなかったり、際に住んでいる人の不満が大きい。納得度を上げ、用地買収をスムーズに進めるために、用地買収エリア案を複数案提示する。
- ・事業を円滑に進めるためにも、41mより浅いシールドトンネル部の影響のある地権者も含めたより広い地域に対して、事業の早い段階から、移転や補償の対応ができる制度を考えて実施してほしい。
- ・外環とその周辺の工事、どのような事項がいつまでに決まるのかなどのスケジュールを示してほしい。計画によっては、自宅の処分を検討する必要があるため、三日月地域を含む用地買収などの予定を示してほしい。

計画検討の進め方

- ・用地の買収については、計画の線にこだわらず、計画地周辺の住民に対しても柔軟な対応をすべきである。
- ・外環の平面計画に基づいた断面計画を示してほしい。地下40mより浅い場合では、自分の家屋への影響があるのではないかと心配している。
- ・現況では、都市計画道路の計画についての情報を知っている住民は少ない。計画がスムーズに進むようにするためには、都市計画道路の計画に関する情報の周知を図る必要がある。
- ・三日月地域も含め、外環ができた後も、この地域に住み続けたいという人たちに対し、情報が開示されていない。相談窓口を設けてほしい。
- ・家のすぐ近くで工事が行われるため、工事の振動、騒音、粉塵に大きな懸念がある。工事期間が長期に渡るのであれば、耐えられないのではないか。環境影響評価の振動、騒音などの予測評価結果は、供用後の状況であり、工事については、十分な情報の提供がなされていない。生活できるのか不安なため、早期に説明がほしい。
- ・三日月地域に住む高齢者は、自分たちの生活がどうなるかを懸念している。わかりやすく情報を伝えるなど、親身に対応して、不安を解消してほしい。

(2) 三日月地域

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・外環だけでなく周辺の既存施設もあわせて一体的な環境対策を行うことで環境負荷の軽減を図るとともに、交通・防災の拠点となる施設の立地などにより、地域住民へのメリットを考慮する。〔計画段階〕
- ・三日月地域が孤立しないように配慮し、特に工事段階では、計画的、段階的に工事を進め、常に三日月地域へのアクセス道路が確保されるように配慮する。〔工事・管理段階〕
- ・用地補償については、一括買い取りによる集団移転も視野に入れ、住民の意向をくんだ、柔軟かつきめ細かな対応を行う。〔調査・計画段階〕

交通

- ・三日月地域内に行き止まりの道路ができると、地区内の移動にも支障が生じるので、行き止まりにならないようにしてほしい。

環境

- ・大気や水質などに悪影響を及ぼしかねない施設が地域に立地していることから、外環単独で考えるのではなく、一体的に考えて、環境負荷の軽減を行う必要がある。外環だけでなく地域の他の施設でも環境負荷軽減策を実施する。

まちづくり

- ・自家用車の利用を減らし、公共交通を促進するために、バスを鉄道のように利用できる施設や、災害時に救援物資を都心まで運ぶための集積所に三日月地域を利用する。外環ができることによるメリットを地域にもたらし、三日月地域の一括買取のためのよい理由付けにもなり、土地の有効活用につながる。
- ・三日月地域内で車利用の道路として使われている仙川沿いの道路が通行できなくなるのではないかと懸念している。地区内には他に代替できる道はないので、この道路の機能を確保してほしい。
- ・外環建設による三日月地域の交通の分断を懸念している。地域分断を避けるため、工事中に分断される可能性のある仙川沿いの道の代わりに、仙川を一時的に暗渠にして車を通せるようにしてはどうか。

工事中

- ・三日月地域の孤立化を避けるために、常に三日月地域へのアクセスを確保して、計画的、段階的な工事を推進する。

用地・補償

- ・工事中にトラックなどの工事関係車両が三日月地域に入り込み、狭い道路を塞ぐことを懸念している。工事車両の流入を防ぐため、三日月地域への外部車両を進入禁止にするなどの配慮が必要である。それを実施できないのであれば、三日月地域全体を買収すべきである。
- ・工事中、三日月地域が孤立することを懸念している。工事期間中も、仙川沿いの道路に代わる迂回路を確保するなどにより、車での三日月地域へのアクセス性を確保してほしい。
- ・自家用車の利用を減らし、公共交通を促進するために、バスを鉄道のように利用できる施設や、災害時に救援物資を都心まで東八道路からのアクセスではなく、スマートIC(ECT 専用インターチェンジ)を整備して乗用車だけでも出入りができるような場所をつくれないう。この地域は、中央 JCT ができることによる負担を負うため、高速道路を使用しやすいという恩恵がほしい。運ぶための集積所に三日月地域を利用する。外環ができることによるメリットを地域にもたらし、三日月地域の一括買取のためのよい理由付けにもなり、土地の有効活用につながる。
- ・外環が建設されることによる環境への影響は少ないといくら説明されても、環境は今より必ず悪くなると思う。三日月地域に残ることが想定されている住民への、工事中や完成後の影響が大きいことを考えると、所有地が一部しかかからなかったり、計画線の際にある人でも、移転の意志のある人に対しては補償を行う。
- ・三日月地域は一括買取としてほしいが、地域住民の意思統一ができなかった場合や高齢者など慣れ親しんだ土地を離れたくない人への対応策として、地域に残りたい人のための土地を一部確保する。
- ・三日月地域の全戸移転補償も検討すべきではないか。行政から提案することはまず考えられないので、まず三日月地域の住民が一体となって、自発的、段階的に実現させることを考えてはどうか。その際、地元に残りたい人は残れるような用地を確保する必要もある。
- ・高齢者にとっては、移転による生活の変化は負担となるのではと懸念している。三日月地域の中央自動車道の南側の環境施設帯を狭くすることができれば、そこに住んでいる高齢者の 5～6 世帯が移転しなくてすむのではないかなう。

- ・外環建設によるデメリットの大きい三日月地域を全て買収してはどうか。買収した土地に、中央 JCT の建設により有効活用される施設をつくる計画とすれば、買収の理由付けにもなると思う。(例：物流の積換え施設、道の駅、大型サービスエリア、風力発電施設、高速バスのバス停)
- ・外環の整備によって受けるデメリットは大きい。中央 JCT 周辺、特に三日月地域は、全て国で買い取り、三日月地域の環境以上の土地と建物を提供してほしい。

(3) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・換気所だけではなく、ランプ部の排出ガスや既存施設の影響などを加えたデータによる大気への影響を分析し、住民にわかりやすい情報を提供する。〔調査段階〕
- ・比較検討やシミュレーションを行うとともに、事例の見学などを行い、住民にとっても納得のいく検討を行う。〔計画段階〕

環境

- ・大気汚染に影響を及ぼす要素は複数あることを踏まえると、単独でのデータではなく、一体的に考えた地域の大気への影響が示されないと、本当に影響がないとは判断できない。換気所単独ではなく、ランプ部の自然排気や中央自動車道、ゴミ処理施設などの既存施設を加えたデータで大気への影響を説明する。
- ・換気所が、中央自動車道の照明の高さよりも低い計画となっているが、十分な排気機能を確保できるのかという懸念がある。可能な限り換気所からの排出ガスを浄化できる除じん装置を設置してほしい。
- ・この地域だけが換気所からの排出ガスによる大気汚染のリスクを負うのは不公平である。リスクを分散させるためにも、換気所を分散させることはできないか。

計画検討の進め方

- ・数値だけでは実感がわかず、判断が難しいので、実際に目で見、感じることを通じて影響の説明をする必要がある。既存の換気所の見学会や、模型を利用したシミュレーションを実施する。
- ・換気所の高さの複数の比較検討を実施する。比較検討を行った上での選択であることが示されれば、現況の高さへの納得度が上がり、一方的に説明されるのではなく、住民もデータを比較し判断することができる。

(4) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ ETC を活用した出入口増設などによる渋滞緩和、大気への配慮などを行い、周辺地域の生活環境に与える影響の軽減や利便性の向上を図る。〔計画段階〕
- ・ 防音壁の緑化などにより景観にも配慮する。〔計画段階〕

交通

- ・ ETC を活用して、東八道路だけでなく複数の出口を設置することで、渋滞の緩和と渋滞による大気汚染を回避し、利便性を向上させる。

環境

- ・ 道路の防音壁をツタなどにより緑化することで無機質さを減らし、ドライバーにとっても周辺住民にとっても、よい心理効果のある景観にする。
- ・ ETC を活用して、東八道路だけでなく複数の出口を設置することで、渋滞の緩和と渋滞による大気汚染を回避し、利便性を向上させる。
- ・ 換気所が予想していたよりも低いため、排出ガスを十分に浄化ができるかという懸念がある。中央 JCT 地上部に関しては、換気の対策がなく、周辺地域に排出ガスがそのまま排出されるのではないかと懸念している。蓋をかける部分を増やす、ドーム型にするなどの対策を考えるべきではないか。
- ・ 渋滞した車から出る排出ガスによる大気への影響が心配なので、IC や中央 JCT で渋滞が起きないように、ランプに十分な車線数を確保してほしい。また、渋滞が発生した場合でも、排出ガスが周辺に流れないように、地上部（中央 JCT 内の黄色い部分）に蓋をかけてほしい。

(5) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 地域住民もより主体的に真剣に外環の問題に対する対応に取り組む。〔調査・計画・工事・管理段階〕
- ・ 外環を検討するにあたり、検討会で出された意見も踏まえ、行政は住民との信頼関係を高めるよう配慮する。〔調査・計画・工事・管理段階〕
- ・ 高速道路の無料化などにより、地域住民へのメリットを考慮する。〔計画段階〕
- ・ 工事を短期間に終了でき、生活への影響を極力小さくする施工技術や工事の方法を検討する。〔計画段階〕

工事中

- ・ 工事期間中に、土砂の搬出のために計画地に入出入りするトラックによって、騒音、振動、狭い道での交通事故などが発生することを心配している。トンネル掘削の土砂は、陸上で輸送するのではなく、船舶を利用して多摩川から羽田空港の埋め立て地に運ぶなどして、道路の渋滞を回避すればよいのではないか。

計画検討の進め方

- ・ 三日月地域の住民の外環建設に対する危機感が薄い。ちゃんと情報が伝わっているのか、伝わった上でどうでもいいと思っているのかはわからない。町会で回覧板は回しているが、各戸でどのように考えているのかまではわからない。多くの人が外環ができた時にどうなるのかということを知らないまま計画が進み、いざ工事が始まって困ったと言いついても遅いと考えているので、この状況を何とかしたいと思っている。8 月末整備への対応策を話し合う会が開かれたが、予想以上に出席者が少なかった。全戸にアンケートを実施するという案も出たが、まだ始めている。
- ・ 三日月地域の一括買い上げなどを自治体に提案するためには地域で見解をまとめる必要がある。住民が出てこないとしりや都も対応できないだろう。その意思統一を図るのがとても難しい。

- ・三鷹のゴミ処理施設は、昼間は煙が見えないが、夜見ると煙が出ている。下水処理場も、雨で水量が増えた時に仙川に汚水を排出していると思う。環境負荷の軽減というより、住民には目立たないように処理しているだけではないのかと思う。行政が三日月地域における排気や排水などの影響をなるべく少なくしていると言われても信頼できない。
- ・高速道路の収益を利用者に還元するため、高速道路を全て無料化してはどうか。地域住民へのメリットにもなる。
- ・工事による騒音、振動、粉塵などの生活への影響を懸念しており、それらが長期に渡れば、影響は更に大きくなると考えている。工事が短期間で終了できるように、施工技術の開発をすることも重要ではないのか。
- ・検討会で出された懸念にきちんと対応して、外環および周辺の工事に伴う騒音の削減や、道路の安全の確保のための対応策を検討してほしい。
- ・行政は異動が多いが、担当者が代わると対応が変わるようでは困る。一貫した対応をしてほしい。

B グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ バス路線の維持・新設や幹線道路の交通処理能力の向上、歩行者・自転車も利用しやすい充実した道路ネットワークの構築など、誰もが行きたいところに無理なく移動できるよう、周辺地域の交通利便性の向上を図る。また、地域に残された自然環境の保全に配慮して周辺の道路整備を行う。〔計画段階〕
- ・ 浅深度部分の住民への用地買収等に関する十分な情報提供のための広報の工夫とともに、生活再建救済制度の申し込み受け付けを再開する。〔調査段階〕
- ・ 立ち退きと事業化の時期等について、事前に正確な情報提供とわかりやすい説明を地権者等に対して十分に行う。〔計画段階〕

交通

- ・ 東八道路を片側 3 車線に拡幅することにより、IC 設置に伴う交通需要の増加に対して適確な交通処理ができ、渋滞緩和を期待することができる。
- ・ 外環整備に伴うメリットが生まれるよう、交通利便性を現在よりも向上させる。
- ・ 新旧の道路を効果的に結ぶことにより、地域の道路ネットワークの充実を図る。
- ・ 地域に住み、働き、訪れる老若男女の人々が、行きたい所に無理なく行くことができるよう交通条件を整える。
- ・ 交通量増加が予想される幹線道路を通行しやすくすることにより、渋滞による周辺への諸影響を防ぐ。
- ・ 吉祥寺通りなど、外環で分断される道路の代替路を整備しないまま外環の整備が始まった場合、地域内で渋滞が発生して、交通利便性や周辺環境が悪化することを心配している。外環の整備に遅れないように、地域の幹線道路網の適切な整備が必要と考える。

環境

- ・ 吉祥寺通りに関しては、三鷹都市計画道路 3・4・11 とつがると、その部分で渋滞が発生して、地域の生活道路の利便性や生活環境が悪くなる。吉祥寺通りは、現在のルートを残すために、中央自動車道や外環の上や下を通すことを検討してはどうか。
- ・ 中央自動車道の側道は、環状 8 号線へ行くには途中で切れていて利便性が悪いため、外環の整備と合わせて、中央 JCT も直線的に渡って、スムーズな走行ができるように改善することを提案したい。
- ・ 品川通りまでつながる道路が整備されると、地域の交通利便性が高まるため、吉祥寺通りの中央 JCT 南側部分の検討とは別に、調布都市計画道路 3・4・17 の早期整備が必要である。
- ・ 地域の交通利便性を向上させるため、中央自動車道の側道は、一方通行ではなく両側 2 車線にして、双方向に通行できるようにすることを提案したい。
- ・ 東八道路 IC は、大泉方面に行く際には、一旦東名方向に進んで U ターンする構造になっているため、心理的に遠回りをしているという感覚がある。東八道路 IC を遠回りしないで利用できるように改善できるとよい。
- ・ 調布市民などが、東八道路 IC を多く利用して、その整備効果を高めるためには、東八道路 IC にアクセスしやすい地域道路網の形成が重要である。
- ・ 地域の交通の利便性を向上させるために、吉祥寺通りについては、甲州街道(国道 20 号)の給田交差点と東八道路の間の円滑な連絡を確保してほしい。
- ・ 外環と甲州街道(国道 20 号)とのアクセスが重要である。両道が直結しないのであれば、甲州街道(国道 20 号)と東八道路 IC 間をスムーズに連絡できるように、道路整備を行うことが重要である。
- ・ 仙川崖線緑地の雑木林は、子供たちにとっても貴重な自然である。その場所に、調布都市計画道路 3・4・17 が整備されて、既存の環境が壊されることを心配している。調布都市計画道路 3・4・17 の計画を変更して、仙川崖線緑地を保全すべきである。

まちづくり

- ・吉祥寺通りと三鷹都市道路 3・4・11 結び、千歳烏山駅方面に向かう吉祥寺通りのバス路線を残すことにより、吉祥寺通りの分断による交通利便性低下の問題に対応することができる。
- ・吉祥寺方面と仙川駅方面を結ぶ幹線ルートに新たな一般バス路線を設けることにより、吉祥寺通りの分断による交通利便性低下の問題に対応すると同時に、交通ネットワークの充実に寄与できる。
- ・吉祥寺通りと三鷹都市計画道路 3・4・11 をつなぐ場合、吉祥寺通りの中央 JCT 以南の部分は、歩行者重視の生活道路として、自転車歩行者道としての整備を提案する。三鷹都市計画道路 3・4・11 も、中央 JCT 通過部分を、レインボーブリッジのように 2 層の構造とし、下段を歩行者道として整備し、吉祥寺通りの中央 JCT 南側につなげることを提案する。
- ・中央 JCT 南側部分で、三鷹都市計画道路 3・4・11 につなぐ吉祥寺通りのルートを、歩行者重視の道路として整備する場合は、歩道部分を歩行者用 2m、自転車用 2m の合計 4m の幅員を確保することを提案する。
- ・都市計画道路の整備により、地域のバス路線が変わらないか心配している。吉祥寺通りのバスルートを、現状のまま残してほしい。
- ・今後は車の交通量が減り、自転車や歩行者の移動を十分に考慮すべき時代である。都市計画道路を整備する際には、自転車・歩行者道(片側 4m)を、できる限り確保してほしい。

用地・補償

- ・生活再建救済制度適用の申し込み受付けが今年 3 月で終わってしまったために申し込みできなかった立ち退き対象の人の不公平感を払拭するため、3 月までと同じ条件で申し込み受付けを復活させる。
- ・立ち退きの実施と事業化の時期等について、地権者などに疑念や誤解が生じないようにするため、事前に移転補償に関わる正確な情報提供とわかりやすい説明を十分に行う。

計画検討の進め方

- ・人口減少や原油価格の高騰などを踏まえると、外環の完成時の交通需要予測が、当初の見込みと違っていることが想定される。そのため外環のアクセス道路となる都市計画道路の計画について見直す検討が必要である。

- ・ガソリン価格高騰などの社会経済情勢の変化に伴い、今後、車の交通量が減っていくと考えられる。環境負荷の軽減やコストの縮減に向けて、都市計画道路の再検討を行うことが重要である。
- ・ガソリン価格の高騰などにより、車の流れに大きな変化が起こると考えられる。このようなことは、政府レベルで検討しなければならない要素である。その検討結果を受けて、都市計画道路の整備を再検討することが重要である。

(2) 三日月地域

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・三日月地域に即した課題の解決に向け、三日月地域の住民が主体となった検討を行っていく。〔調査・計画段階〕
- ・外環の整備にともない健康被害を含めた環境の悪化が懸念されている三日月地域の集団移転が可能な救済措置など、コミュニティを維持することを重視した移転方法を検討する。〔計画段階〕

計画検討の進め方

- ・三日月地域の住民が集団で移転できることにより、コミュニティ形成上の悪影響を回避できる。
- ・三日月地域のコミュニティを維持することを重視した移転方法を考えてほしい。
- ・外環と中央自動車道に挟まれる三日月地域は、人が生活できる環境ではなくなるため、生活再建救済制度の検討対象に含めるべきである。
- ・三日月地域に即した課題の解決を図るため、三日月地域の住民が主体となった検討を行っていく。

交通

- ・三日月地域から中央自動車道の反対側（三鷹市方面）への行き来がしやすいように、外環の整備と合わせて、生活道路網を充実させてほしい。

環境

- ・外環が建設されることにより、どのような対策が講じられても三日月地域は人が住める環境ではなくなる。
- ・人体に感じられない振動が、実際には健康等に影響がある可能性もあり、現在の予測手法による結果が環境基準内でも未知の影響がある懸念がある。

まちづくり

- ・三日月地域は、人口の約3割が高齢者である。駅に行く場合は、バス停まで歩いてバスに乗ることが多い。調布都市計画道路3・4・17や調布都市計画道路3・4・13などの幹線道路の整備と合わせ、バスルートを検討し、三日月地域を含めた緑ヶ丘地区の交通利便性の向上を図ってほしい。
- ・三日月地域にバスルートがない上、外環の整備による地域分断によって、住民の生活利便性がますます悪くなることが心配である。三日月地域～白百合女子大学付近（緑橋付近）間にバスを通すなどの整備を行なってほしい。
- ・仙川沿いの道路は、三日月地域の住民の重要な生活道路であり、外環の整備により分断されるのが心配である。環境施設帯等の整備を行う際に、これまでどおり仙川沿いの道路を利用できるようにすべきである。

用地・補償

- ・外環による影響を大きく受けることが懸念されている三日月地域に対して、生活再建救済制度が適用されて移転などの補償がされることにより、地域住民の生活環境上の影響を回避できるとともに安心して生活再建を図ることができる。

(3) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 空気の浄化に効果的な緑地整備や外環周辺の豊かな環境の創出につながるよう、環境施設帯の緑化やコミュニティ空間の形成を図る。〔計画・管理段階〕
- ・ 防犯などの安全確保に配慮しつつ、住民でも手入れしやすい緑地となるよう工夫する。〔計画・管理段階〕

環境

- ・ 大気質の改善に効果のある樹種の選定や配置などを行うことにより、少しでも排出ガスによる影響を低減することができる。
- ・ 防犯に配慮した緑化計画を行うことにより、住民が安心して利用できる環境施設帯を整備することができる。
- ・ 環境施設帯に対して、適切な管理方法を検討して実施することにより、犯罪や交通事故などの発生を防止でき、良好な環境施設帯として維持できる。
- ・ 緑を増やして環境を豊かにすることは、少なからず空気の浄化にも役立つ。
- ・ 良好な緑地として管理する上で、樹木等の適正な配置が重要である。
- ・ 良好な緑地として維持するためには、住民でも手入れしやすいことが重要である。

まちづくり

- ・ 中央自動車道の下には、お祭り等の場にもなるわんぱく児童遊園という場所がある。外環の整備においても、地域に開放されるコミュニティ施設などの設置を期待する。

安全・安心

- ・ 武蔵野柏江線と仙川沿いの道は、ひったくりが発生しており、外環の環境施設帯や側道等において、犯罪が発生することが懸念される。外環の整備にあたっては、防犯に配慮した適切な植樹や街灯の設置を十分に検討してほしい。
- ・ 三鷹料金所付近の緑地帯では、夜は痴漢も出ていることを考慮すると、外環の広い環境施設帯も緑化した場合には、草木が生い茂って見通しが悪くなり、治安が悪くなる心配がある。事業関係者は、環境と治安の両面を十分に考慮した上で、環境施設帯の緑化整備と管理を適切に行なってほしい。

- ・ 防犯に配慮した緑化計画を行うことにより、住民が安心して利用できる環境施設帯を整備することができる。
- ・ 環境施設帯の緑化後に雑草が生い茂り、住民に草刈などの負担が生じることが心配である。環境施設帯の植栽は、関係者側で適切に管理してほしい。

(4) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ できるだけ着工に近い時点において、海外の事例を含むさまざまな最新技術を研究・採用するなど、排出ガスを効果的・効率的に処理し、大気への影響が極力小さくなるよう努める。〔計画段階〕

環境

- ・ 技術革新が進む中、できるだけ着工時に近い時点での最新技術を採用することにより、より効率的・効果的な排出ガス処理が可能となり、浄化能力の向上やコストなどの面でのメリットが期待できる。
- ・ ゴミ処理場の処理技術を参考または応用することにより、換気所の処理能力を高められる可能性がある。
- ・ 外国の事例も参考にしながらさまざまな処理技術を研究し、より適確な排出ガス処理の方式を採用することにより、大気質汚染を低減できる。
- ・ 自動車の技術革新の動向等を踏まえると、外環が着工する頃には、大気汚染の原因が少なくなっていることが予想され、同時に換気の負担を軽減できる可能性もある。

計画検討の進め方

- ・ 検討会資料の大気質の予測結果は、現在、道がない状態でのシミュレーションである。どのような資料を使って算出したのか知りたい。また、資料のデータは出典など数字の根拠を示してほしい。

(5) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 今後の交通事情、経済状況の変化を見通し、最新かつ客観的なデータによる交通量の予測や計画の見直しを行う。〔調査段階〕
- ・ 外環によって三日月地域などの中央 JCT 周辺の地域が人の住みにくい生活環境になってしまうと予想される場合は、外環を建設しないという選択肢も含めて検討する。〔調査・計画段階〕
- ・ 地区検討会などの結果について、専門家を加えた会議を行うとともにその情報を提供しながら、事業実施段階も行政と地域住民による継続的な議論と、地域住民がチェックを行える機会を設ける。〔調査・計画・工事段階〕
- ・ 買収済み用地の工事前・工事中・工事後の土地利用についての適切な情報提供を事前に行う。〔工事段階〕
- ・ 環境への影響の実測値が予測値よりも悪くなった場合において迅速かつ適切に対応を行う。〔管理段階〕

計画検討の進め方

- ・ 今回の課題検討会が、市民が発言しただけに終わらず、発言内容や討議結果の実現性を明らかにしていくため、専門家による実現性などについての検討をテーマ別会議により行うとともに、その検討結果を市民に見える形でわかりやすく伝える会を開催する。
- ・ 事業化に至るまで住民が参画して意見が反映されるとともに事業化後も適切に事業を進めるため、行政と市民による継続的な議論と市民による定期的なチェックを行える機会を設ける。
- ・ 事業の実施段階においても課題の解決を図るため、行政と住民との双方向での検討を継続する。
- ・ 外環事業用地として買収済みの土地利用状況によっては、隣接する住環境の悪化の恐れがある。その懸念を抱く隣接住民の不安解消を図る必要があるため、工事開始までの土地利用計画、工事中・工事後の土地利用計画（用途）を事業化前に示す。

- ・ 最新データを使って交通量を予測し、かつ柔軟に道路計画の変更を図ることにより、的確な交通需要の把握とともに社会経済情勢の変化への対応が可能となり、環境負荷の低減と無駄のない道路整備を行うことが期待できる。
- ・ 計画交通量のデータが古いので、着工前に最新の交通センサスを見るべきである。
- ・ 外環自体を建設しないことにより、三日月地域など周辺地域の生活環境（利便性や大気質など）の悪化やコミュニティへの影響を回避でき、住み続けることができる。
- ・ 客観的なデータを用いた交通事情の予測結果にもとづき、必要に応じて道路計画の見直しを適宜行なう。
- ・ 地下水への影響は、実際に工事をしてみないとわからないのではないかと。環境アセスメントの予測値どおりに、影響が極力小さくなるよう努めてほしい。もし、実測値が予測値よりも悪くなることが判明したら、その段階で迅速かつ適切な処置を行ってほしい。
- ・ 外環の整備に関する、専用の市民の相談窓口を市役所に設置してほしい。
- ・ 中央自動車道の渋滞を緩和し、外環とのスムーズな交通を実現するために、三鷹料金所の増設の検討を提案する。
- ・ 地域のことでなく、環境問題やガソリン価格高騰などを考慮すると、交通計画は、常に 10 年先を見据えながら、モーダルシフト（車から他の交通手段への利用転換）に関する検討も重要である。
- ・ 社会情勢によって、外環や都市計画道路の計画が変化している。住環境が保全されるよう計画全体を再検討してほしい。

(6) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・料金所の ECT 化やジャンクション部の蓋かけまたはドーム化など、中央 JCT 開口部分からの排出ガスの流出などを防止するさまざまな対策を検討・実施することにより、大気など環境への影響を最大限低減させる。〔計画段階〕
- ・外環の利用者の交通安全上対策のひとつとして、ジャンクション構造（線形等）のシンプル化を図る。〔計画段階〕

環境

- ・中央ジャンクションから排出ガスをより低減させるため、当該ジャンクションの動線をより単純化（シンプルに）する。単純化が難しい場合は、排出ガス流出の防止を図るため、ジャンクションの開口部に蓋かけまたはドーム化を図る。
- ・ETC の設置により、料金所付近での加減速が減り、排出ガスの排出量を低減させることができる。
- ・トンネル部からの排出ガスを合わせて換気所で一括処理することにより、ジャンクション部から外部への排出ガスの流出を防止できる。
- ・高速道路の料金所で窓を開けた時に排出ガスの臭い匂いが漂っている状況を考えると、検討会資料に載っている予測値はかなり小さく感じる。換気所で処理できないジャンクション部からの排出ガスによる影響がないようにしてほしい。

安全・安心

- ・交通事故や進路ミスなどの防止を図るため、中央ジャンクションの動線をより単純化（シンプルに）する。

(7) トンネル部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・換気所だけでなくトンネル内でも空気をより浄化するための仕組みを導入するなど、さまざまな工夫により環境への影響を最大限低減させる。〔計画段階〕

環境

- ・トンネル内にも排出ガスを処理する仕組みを設けることにより、多段階で空気を浄化する。外部の大気質への影響をより一層低減できる。
- ・現在の環境基準や予測手法で捉えてきていない未知の部分で環境影響の可能性があるため、環境対策を最大限講じておくことが重要である。

C グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・地域ごとに課題を共有し、理解を深めたいうえで、全地域住民の居住環境の維持・向上を目的とした計画づくり、まちづくりを進める。〔計画段階〕
- ・外環整備と同時に都市計画道路などの整備を行うことにより、周辺の道路へ外環を利用する車が流入しないようにする。〔計画段階〕
- ・多大な影響を受ける三日月地域などは、安全な生活が維持できる交通規制対策を講じる。〔計画段階〕
- ・東八道路 IC への交通集中を避けるために、道路整備以外の対策も講じる。〔計画段階〕

交通

- ・三鷹都市計画道路 3・4・13 支 1 と三鷹都市計画道路 3・4・13 支 2 は、調布都市計画道路 3・4・17、三鷹都市計画道路 3・4・11 と合わせ、外環の整備と同時に整備しないと、生活道路への通り抜け車両の流入の増加が懸念される。
- ・外環の整備に合わせて、調布都市計画道路 3・4・17、三鷹都市計画道路 3・4・11 をはじめとする周辺の都市計画道路の整備も同時に進めないと、生活道路への通り抜け車両の流入の増加が懸念される。一方でこれらの道路が整備されると、都市計画道路や外環の利用度が高くなり、交通渋滞を招かないかも心配でもある。
- ・生活道路への通り抜け車両の流入の増加や渋滞が懸念されるため、外環の整備に合わせて、周辺の都市計画道路の整備も進める必要がある。同時に都市計画道路の整備以外の対策（交通規制など）も検討することも必要である。一方で、周辺の都市計画道路を整備する場合、立ち退きにより痛みを伴う住民への対処について、今後検討することが必要である。

- ・スマート IC（ETC 専用インターチェンジ）を設置したり、長いランプを経由せず、各々の車線から出られるようにすれば、東八道路 IC への交通集中・渋滞を回避することができるのではないかと。専門家が検討しているはずなので、公表してほしい。
- ・外環整備により、三日月地域の仙川沿いの生活道路への通り抜け車両の侵入がさらに増加してしまう。侵入防止施策が必要だ。
- ・島忠（ホームセンター）ができる予定だが、外環だけが整備され、他の都市計画道路が整備されないと、周辺の生活道路が渋滞してしまう。また、外環の整備により吉祥寺通りが分断されると、日常生活に支障がでる。周辺地域の都市計画道路に、どのように車が流れるのかなど、都市計画道路や生活道路の渋滞の対応策を検討してから、外環の事業を進めてほしい。
- ・外環だけが整備されると、生活道路へ進入する通り抜け車両が増加し、事故の危険性や渋滞が増大する。外環と三鷹都市計画道路 3・4・11 を同時に整備するべきである。
- ・東八道路の延伸整備が、外環の開通に間に合わなかった場合、渋滞が発生するのではないかと心配である。対応策を検討すべきである。
- ・外環が整備されても、その他の都市計画道路が整備されていないことにより、地域の生活道路が抜け道として利用されたり、渋滞することが心配である。外環の整備スケジュールと都市計画道路や生活道路の整備スケジュールとがずれているのはよくない。現在どのようなスケジュールになっているのかを知りたい。
- ・外環の周辺道路について、外環の整備後は、現在の交通量に、インターチェンジを利用する車両が加わり、さらに渋滞する。外環の整備に合わせて、インターチェンジから甲州街道（国道 20 号）へ抜ける道路として三鷹都市計画道路 3・4・11 の整備が必要である。取付道路の詳細や、都市計画道路の整備計画を知りたい。
- ・東八道路を外環の接続道路とすることは、道路網の形成の観点で懸念がある。広域的な視点で道路整備を考えると、甲州街道の方がよいのではないかと。

まちづくり

- ・島忠(ホームセンター)ができる予定だが、外環だけが整備され、他の都市計画道路が整備されないと、周辺の生活道路が渋滞してしまう。また、外環の整備により吉祥寺通りが分断されると、日常生活に支障がでる。周辺地域の都市計画道路に、どのように車が流れるのかなど、都市計画道路や生活道路の渋滞の対応策を検討してから、外環の事業を進めてほしい。

安全・安心

- ・外環の整備により、三日月地域の仙川沿いの道路へ流入する通過交通がさらに増加し、危険である。対策を考えてほしい。
- ・外環の整備により、三日月地域の仙川沿いの生活道路への通過交通が更に増加し、危険である。宅急便の車や自家用車のみを通行可能にするなど、三日月地域の住民の安全な生活が補償されるような仕組みを、行政は提案するべきである。
- ・トンネル内の本線とランプの合流部上部の居住者(図面のオレンジ部分)は、土地家屋等の補償対象かどうかが工事方法に左右されるため、不安な生活が続いている。一刻も早く、補償されるのかなど、具体的な対応策を示すべきである。
- ・三日月地域では、課題解決の優先順位が非常に重要である。まずは、生活道路への通過交通抑制のために、車の進入規制など、安心して住める地域にすることである。それが担保された上で、緑等の環境の保全・創出を考えていくのが順序である。安全なくして、環境の保全・創出はありえない。

工事中

- ・日頃から工事や大型車が通過するときの、騒音や振動などで悩まされている。外環の工事を行う際に、生活と安全が確保されるのが、非常に心配である。工事の段階から、車の規制をするなど、規則を定めてほしい。

用地・補償

- ・外環の整備により、三日月地域は分断され、孤立してしまうため、買い上げてほしい。どの程度の希望を聞いてもらえるのか、教えてほしい。
- ・外環の整備により、三日月地域は分断され、孤立してしまう。充分な話し合いを行い、買い上げなどの方策を検討してほしい。

計画検討の進め方

- ・外環ができることで、三日月地域の住民は、大きなダメージを受けることを懸念している。居住環境が現状維持できるよう配慮し、十分な補償をすることが重要である。

- ・外環ができることで、最も被害を受けるのは三日月地域住民であることを踏まえ、三日月地域の住民と他の地域の住民とが、各々の地域の課題を共有し理解を深めることが重要である。さらに、各々の居住環境の現状維持を求めることが重要である。

- ・外環が整備されても、その他の都市計画道路が整備されていないことにより、地域の生活道路が抜け道として利用されたり、渋滞することが心配である。外環の整備スケジュールと都市計画道路や生活道路の整備スケジュールとがずれているのはよくない。現在どのようなスケジュールになっているのかを知りたい。

- ・外環の周辺道路について、外環の整備後は、現在の交通量に、インターチェンジを利用する車両が加わり、さらに渋滞する。外環の整備に合わせ、インターチェンジから甲州街道(国道 20 号)へ抜ける道路として三鷹都市計画道路 3・4・11 の整備が必要である。取付道路の詳細や、都市計画道路の整備計画を知りたい。

- ・この地域に、全てしわ寄せがきている。中央 JCT と東八道路 IC を地下化すれば、多くの課題が解決できるのではないか。

- ・仙川駅商店街で商売を営んでいる。道路ができることにより、商業環境は大きく変化する。外環の整備が、地域の商業環境にどのような影響を及ぼすのかを知りたい。

(2) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・シミュレーションや絵を用いるなど、誰にでも理解しやすい説明を行うとともに、見学会を実施するなど、地域住民の理解を深める工夫をする。〔計画段階〕
- ・排出ガスが拡散されて大気への影響がないよう、生活への悪影響に対する不安が解消できるような検討データの開示・提供を行う。〔計画段階〕

環境

- ・見学会を実施することで、換気所の処理方法などのイメージをつかむことが重要。その場で疑問に回答し、換気所に関しての疑問点や不信感を解消することが重要である。
- ・換気所の高さは 15m とのことだが、この高さで排出ガスが拡散されるのか心配である。安全性が確保されるよう、高さ設定や、処理方法を十分に検討する必要がある。
- ・周辺には換気所だけでなく三鷹市環境センター(三鷹市の処理施設)もある。外環と三鷹市環境センターとを総合的に評価した場合の大気汚染など、環境に関する生活への影響を知りたい。
- ・換気所の高さが 15m で、本当に排出ガスが拡散されるのか心配である。情報や説明がないことが不満である。換気所をつくってほしくはないが、つくるなら、十分に検討した上で高さを決めてほしい。
- ・換気所から放出される排出ガスが、生活に悪影響を及ぼす。換気所をつくってほしくはないが、つくるなら高さをもっと高くして、排出ガスが拡散するようにしてほしい。

計画検討の進め方

- ・公表される調査内容がわかりにくいいため、地域住民への情報提供不足や情報操作の懸念が生じている。シミュレーションや絵など誰にでも理解できる情報を開示、提供することが重要である。
- ・わかりにくい計画内容を出すと、地域住民への情報提供不足や理解を求める努力不足という不満が生じる。シミュレーションや絵など誰にでも理解できる情報を開示、提供することが重要である。

- ・換気所から放出された排出ガスによる影響や、影響をおよぼす範囲について、具体的なデータを示されていないことが不満であり不安である。換気所からの排出ガスが、どれくらい拡散できるかなど、具体的な数値や場所を地域へ公表してほしい。
- ・周辺には換気所だけでなく三鷹市環境センター(三鷹市の処理施設)もある。外環と三鷹市環境センターとを総合的に評価した場合の大気汚染など、環境に関する生活への影響を知りたい。

(3) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・外環の整備にともない生じる可能性のある問題などは、あらかじめ行政が責任をもって検討を行う。〔計画段階〕
- ・地域住民に対し、専門的な内容もわかりやすく丁寧に説明し、懸念が解消できるようにする。〔計画段階〕
- ・中央ジャンクションの地下化や位置の変更など、周辺地域への影響を小さくすることに配慮して検討する。〔計画段階〕

計画検討の進め方

- ・トンネル部やジャンクション部など、専門的な知識が必要なテーマについては、地域の意見だけではどうにもならないことがあるので、行政が責任をもって進め、地域に理解を求める工夫をする。その際、専門的な内容をわかりやすくし、地域側の懸念（行政の情報操作）を解消することが重要である。
- ・この地域に、全てしわ寄せがきている。中央 JCT の地下化、中央 JCT の位置の変更など、検討範囲を拡げて検討してほしい。
- ・この地域に、全てしわ寄せがきている。中央 JCT と東八道路 IC を地下化すれば、多くの課題が解決できるのではないかな。

(4) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・移転や補償の対象となる住民の不安を払拭できるよう、行政側から積極的に情報を提供し、生活設計への支援を行う。〔調査・計画段階〕
- ・地域住民の意見を十分に聴き、整備しないという選択肢も視野に入れながら検討する。〔調査・計画段階〕
- ・適切な地点における調査を通じて環境への影響を把握する。〔調査段階〕
- ・検討会で出された意見も踏まえつつ、地域住民の不安が解消されるよう十分な検討や情報提供を行う。〔調査・計画・工事段階〕

工事中

- ・工事中の地域内の交通や生活道路の安全面での影響が気になる。シールドの立杭の位置、資機材搬入道路や工事車両の通行ルートについて知りたい。

用地・補償

- ・例えば、生活再建制度を活用し、11月に契約できた場合、年明けの3月までに更地にしなければならないと聞いた。4ヶ月間で土地探し、家探し、仮住まいなどを自分たちでやるのは無理である。なんとかしてほしい。
- ・オープンハウスへ行ったときに4、5年後には立ち退きになるという話を聞いた。老朽化が進んでいたので結局建て替えたのだが、その半年後に都市計画変更で高架から地下となった。半年という短期間でどうやって変更することができるのか。実際には自分たちが悩んでいるときに、水面下で設計をしていたとは思えない。
- ・生活再建救済制度を活用して、土地家屋等の補償を進めているが、隣地との関係で測量もできない状況である。自分、隣地、向かい側の三者から了解がないと進めることができないと言われても、生活がある住民にとっては重要なことである。境界確定が一刻も早く決められるように、行政に力を注いでほしい。
- ・生活再建救済制度は、高齢であるために手続きがスムーズにできなかったり、子どもたちと話し合いが進まないなどの理由から、期限までに申請できなかった住民もいる。用地買収がきちんとできるまで、制度の期限を延長してほしい。また、これらの問題を解決するために政治的に動いてほしい。

計画検討の進め方

- ・生活再建救済制度を活用して、土地家屋等の補償を進めているが、行政と近隣との調整が進まず止まっている。自身も高齢期にあり建物も老朽化した現在、今後の生活のメドがたらず非常に困っている。行政も一生懸命取り組んでくれているが、業務には限界があるので、早期問題解決（境界確定）のための専門家を配置してほしい。
- ・自分たちが納得できない案が行政から出された場合、外環の計画自体を中止するということはあるのか。つくらないという選択肢はあるのか。
- ・検討会で出された意見などについて、何を、いつ、どのように計画へ反映するのかを、具体的に示していくべきである。市民は、今までも具体的な懸念や課題は出しているが、それらがどのように扱われているのかわからない。検討会が地域の意見をきいたというアリバイづくりにされることが懸念される。三日月地域については、補償がどのようになるのか、国が買い上げてくれない場合はどのようにしたらよいのか、どこに相談したらよいのか、教えてほしい。
- ・環境影響調査は、公共地のみで実施しているので信憑性が薄い。事業化する場合は、地域へどのような影響を及ぼすのか、私有地も含めた適切なポイントで、環境に関する調査を実施すべきである。

(5) トンネル部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・外環の整備にともない生じる可能性のある問題などは、あらかじめ行政が責任をもって検討を行う。〔計画段階〕
- ・地域住民に対し、専門的な内容もわかりやすく丁寧に説明し、懸念が解消できるようにする。〔計画段階〕

計画検討の進め方

- ・トンネル部やジャンクション部など、専門的な知識が必要なテーマについては、地域の意見だけではどうにもならないことがあるので、行政が責任をもって進め、地域に理解を求める工夫をする。その際、専門的な内容をわかりやすくし、地域側の懸念（行政の情報操作）を解消することが重要である。

D グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 周辺の都市計画道路を外環の整備に先行して整備するなど、工事中を含め、生活道路への車両の流入を防ぐ。そのためには地区界が複雑なので、関係行政間で早期に調整する必要がある。〔計画・工事段階〕
- ・ 代替路を確保することで、分断される吉祥寺通りや生活道路の機能を維持する。〔計画段階〕
- ・ 工事期間中は、工事車両の経路等の詳細を事前に広報する。〔工事段階〕

交通

- ・ 外環の整備に先行して周辺の都市計画道路を整備してほしい。それにより、工事車両などが生活道に入り込むことが避けられる。行政界が入り組んでいるので、市、都などがきちんと連携・調整して進めてほしい。これまで多々あった、責任の所在が不明確で調整が遅れるということが避けられる。
- ・ 三鷹都市計画道路 3・4・11 や調布都市計画道路 3・4・17 は、外環の整備に先行して必要な道路である。しかし、これらにのみ通過交通の負荷がかかり、周辺の生活道路が抜け道として利用されることを懸念する。調布都市計画道路 3・4・13 など他の都市計画道路の整備も含め、地域の幹線道路のネットワークを外環に先行して整備することで、生活道路への通過交通の流入防止を期待する。
- ・ 甲州街道(国道 20 号)から東八 IC を結ぶ幹線道路が複数必要である。そのような観点からも、吉祥寺通りは分断せずに、ブリッジを架けるなどして通してほしい。それが不可能ならば、三鷹都市計画道路 3・4・11 と調布都市計画道路 3・4・17 を整備し、これに接続してほしい。
- ・ 通過交通が多い吉祥寺通りが分断された場合、周辺の生活道路に、車両が流れ込むことを懸念する。吉祥寺通りの機能を代替する道路を、外環の整備に先行して確保してほしい。

工事中

- ・ 周辺住民の利便性向上という観点では、スマート IC（ECT 専用インターチェンジ）による出口の設置を計画に追加することを期待する。
- ・ 外環の工事車両が、甲州街道(国道 20 号)から生活道路に入り込むと危険である。三鷹都市計画道路 3・4・11、調布都市計画道路 3・4・13 などの都市計画道路を、外環整備より先に整備してほしい。
- ・ 工事中の工事車両や、供用後に東八道路 IC を利用する車が、地域の生活道路へ流入することを懸念する。これを防ぐために、三鷹都市計画道路 3・4・11 および調布都市計画道路 3・4・17 は、外環の整備に先行して、甲州街道(国道 20 号)まで整備してほしい。
- ・ 緑が丘小学校へは、北野小学校や給田小学校の校区から越境児童も通っている。また、三日月地域は、多くの児童の通学路となっている。このような実態も踏まえ、工事中も含めた通学路の確保と交通安全対策が実施されることを期待する。
- ・ 工事車両は地域の交通に影響がある。事例を示しながら、工事車両の経路・一日あたりの台数・駐車場などの詳細を説明してほしい。

(2) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 工事中および整備後の生活道路の機能確保も含めて、環境施設帯を地域の施設として期待できるよう詳細な検討を行う。〔計画段階〕
- ・ 隣接する地域住民から提案できる機会を設けるなど、住民の意見を聴きながら進める。〔計画段階〕
- ・ 工事現場を囲む壁の高さや設置期間などをできるだけ早期に近隣住民に伝える。〔工事段階〕

まちづくり

- ・ 環境施設帯を横断して生活道路を三日月地域につなぐことにより、三日月地域の孤立化、緑ヶ丘地域コミュニティの分断を軽減できる。
- ・ 環境施設帯について、地域の施設として活用できるように、住民参加による活用方法の検討を行う。地域へのメリットが生み出され、外環が迷惑施設であるという意識が軽減できる可能性がある。
- ・ 生活道路が分断されることを懸念する。分断される生活道路の代替路を外環の整備に先行して確保してほしい。

安全・安心

- ・ 環境施設帯に可能な限り生活道路を復元することにより、環境施設帯が、人目の届かない空間となることによる治安悪化の懸念が軽減できる。

工事中

- ・ 工事中においても、三日月地域が孤立しないように、環境施設帯予定地を横断して生活道路を確保し、同時に生活道路に工事車両が流入しないような工事計画を立案してほしい。
- ・ 緑ヶ丘小学校へは、北野小学校や給田小学校の校区から越境児童も通っている。また、三日月地域は、多くの児童の通学路となっている。このような実態も踏まえ、工事中も含めた通学路の確保と交通安全対策が実施されることを期待する。
- ・ 工事用の壁が目の前に立った場合、どれくらい圧迫感があるのか心配である。壁の設置期間などの工事の詳細を早く教えてほしい。

(3) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 換気所を分散するなど、大気への影響が極力小さくなるよう検討する。〔計画段階〕
- ・ 検討の過程では、タイプの異なる換気所の見学会や大気質、騒音、振動、高さ、トンネル内火災や事故時の排気処理などに関する具体的な情報の提供と説明を行うなど、地域住民の懸念が十分に払拭されるようにする。〔計画段階〕

環境

- ・ 換気所に関する知識がないため、不安がある。同じタイプの換気所の見学会を行いたい。
- ・ 大気汚染が集中しないよう、換気所を分散してほしい。中央環状線の換気所は分散されているので、これらの見学会を行いたい。
- ・ 喘息やアレルギーなど健康への影響を具体的にイメージできるようなデータの提供、説明を行うことにより、大気質の変化が健康に及ぼす影響への懸念を軽減できる。
- ・ 大気への影響に関して、先行事例の換気所の周辺住民へヒアリングを行い、資料として提供することにより、大気への影響に対する懸念を軽減できる。
- ・ 外環の計画地周辺は、現状でも中央自動車道の排出ガスや三鷹環境センターの影響がある地域である。ここに換気所を設置することになるため、これらを総じた大気汚染の具体的予測値と身体への影響、さらに、一般(都内平均など)との比較を教えてほしい。
- ・ 大気汚染がこの地域に集中することに懸念がある。換気所をいくつか分散させて、大気汚染が集中しないようにできないのか。

安全・安心

- ・ トンネル内火災などの事故の時の排気について、心配している。どのように処理するのか説明してほしい。

(4) 三日月地域

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 外環整備に関するスケジュールや用地補償に関してわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、高齢者や身障者世帯にも情報が行き渡るように配慮する。〔計画段階〕
- ・ 個別相談窓口や電話窓口を設置することで、個別に対応した情報提供を行う。〔計画段階〕

まちづくり

- ・ 三日月地域が孤立することに懸念がある。三日月地域が孤立しないように、この地域につながる道を確保してほしい。
- ・ 緑ヶ丘地区は高齢者も多く、今後の移転先や用地補償などの不安を抱えている。行政側の対応は個別対応であり、結果それぞれがひとりで悩んでいる。外環の計画地に関係する高齢者の心のケアが心配である。不安をとりのぞき、精神的に孤立しない工夫をしてほしい。

計画検討の進め方

- ・ 緑ヶ丘地区の自治会の活動だけでは情報の伝達に限界があり、行政の対応への不信感となっている。スケジュールや用地補償に関してわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、高齢者や身障者世帯にも行き渡るよう、計画地に隣接する自治会に配布する（できれば全戸配布）ことにより、解決を図る。
- ・ 個別相談窓口の設置や電話相談窓口を設置し、電話番号を周知することにより、地域住民への十分な情報提供がなされるかという懸念、特に個別の事情に十分に対応して情報提供がなされるかという懸念を軽減することができる。

(5) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 吉祥寺通りなどの分断される主要な生活道路の機能を可能な限り回復できるよう、ジャンクションの構造について詳細な検討を行う。〔計画段階〕

まちづくり

- ・ 吉祥寺通りの機能を回復し、地域分断への懸念を解決できるように、掘割部にブリッジをかけて環境施設帯を通過する道を通す、ランプを下げるなど詳細な検討をしてほしい。

(6) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 自然災害時や環境への計画想定外の影響があった場合、誰がどのように対応、補償するのかについて明らかにする。〔計画段階〕
- ・ 工事期間中において、地域の環境に与える影響について、どのような計画で行なったらどのような影響が出たかを、これまでの事例を用いて説明する。〔調査・計画段階〕
- ・ 場所ごとの騒音の影響を可視化した情報の提供、見学会の実施、地域の掲示板に事業計画等を掲示・更新するなど情報提供の方法の工夫を行い、住民に情報を周知する。〔計画段階〕
- ・ 三日月地域特有の課題の検討や住民の意見交換を行う。〔調査・計画段階〕

計画検討の進め方

- ・ 場所ごとの騒音の具体的影響が分かるような資料を提供してほしい。
- ・ 予想外の事態が起きた場合の対応をどこまで、あるいはどのように考慮しているのか懸念している。例えば免疫のない子どもへの環境変化による影響、地震や水害など自然現象への対応などはどのように考えているか示してほしい。
- ・ すでに完成している区間の先行事例を基に、工事中にどのような交通・安全・環境影響などの計画が立てられ、実際にどのような影響があったのか、具体的に示してほしい。
- ・ 大泉ジャンクション整備の時には住民向けの地域伝言板（掲示板）を常に出していた。調布でも掲示板を活用してほしい。
- ・ 換気所の影響は着地点濃度分布図で見ることができたが、同様に騒音の場所毎での具体的影響を可視化したものを見たい。
- ・ 防音壁がどのような計画となっているのか不安である。計画の先行事例を見学させてほしい。
- ・ 中央自動車道の騒音が三鷹市環境センターで反響し、仙川対岸の三日月地域に響いている。騒音による振動もあるため、細かい状況についても把握してほしい。
- ・ 換気所、防音壁などの先行事例があれば、積極的に見学会を開催してほしい。
- ・ 三日月地域には、特有の課題も多くあるため、三日月地域の住民の意見の集約を行ってはどうか。

E グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 吉祥寺通りなどの幹線道路の機能を維持するとともに、生活道路への通過交通が発生しないように交通規制を行い、現状の生活環境を極力維持する。〔計画段階〕
- ・ 幹線道路やジャンクションによる地域の分断を軽減し、向う三軒両隣のような近所づきあいが維持できるようにする。〔計画段階〕
- ・ 工事中の地域分断や交通安全に配慮した交通計画や交通規制を検討し、工事業者との事前協議の取り決め内容の行政指導や監視を徹底する。〔計画段階〕

交通

- ・ 周辺の都市計画道路の整備の見通しに関する説明会が一度も開催されていないし、この検討会でも説明がない。他の都市計画道路が整備されたときには 2～3 年前に説明会があった。外環の工事が始まる 2～3 年前に、周辺道路が開通していないと工事車両で渋滞になると思うので、前もって都市計画道路の整備の見通しを知ったうえで、整備時期にあわせて、交通規制などの対策を検討したい。
- ・ 吉祥寺通りが分断されることが心配である。吉祥寺通りは三鷹都市計画道路 3・4・11 のバイパス的な役割となるように接続させて、双方の交通量を分散させる必要がある。接続経路は環境施設帯や生産緑地などを通して影響を少なくし、早期に決定し、住民に示してほしい。
- ・ 甲州街道(国道 20 号)と東八道路を往来する車が増えて、吉祥寺通りなどの幹線道路からの抜け道利用によって、生活道路に関係のない車が入り込むことが心配である。特に緑ヶ丘 1 丁目・2 丁目は道幅が狭いため、混むのではないかと思う。地区内交通の車の流れを予測して、一方通行や時間帯による規制など、生活道路への車両の侵入を少なくすることが重要である。

まちづくり

- ・ この地域には向う三軒両隣のような近所づきあいがある。かつて甲州街道(国道 20 号)沿いでも近所づきあいがあったが、道路拡幅後は、横断する機会が少なくなり、別の町のようになってしまった。今後、都市計画道路が計画されている地域では近所づきあいが失われてしまうのではないかと心配である。横断歩道や信号を多めに配置することや、地下の横断道路を整備するなど、横断しやすくして、人の行き来や近所づきあいがなくならないようにすることが重要である。
- ・ 都市計画道路調布 3・4・17 は、仙川を挟んで緑ヶ丘団地仙川アパートの敷地が 3～4m 低くなっている。アパートの対岸の仙川崖線の緑を保全するために崖線は削らないと思うので、アパート側の道路が高架構造になるのではないかと心配している。道路構造がどのようになるかを説明してほしい。
- ・ 都市計画道路三鷹 3・4・11 については、よく分かっていたが、都市計画道路調布 3・4・13 は突如現れた感じ、もっと情報提供をしてほしい。この地域への交通の混雑、影響があるので心配である。説明会などをしてほしい。
- ・ 中央自動車道の側道は利便性が高く、地域住民が利用する主要な道路である。分断されて通れなくなることが心配である。外環の整備後も、中央自動車道の側道を利用できるように残してほしい。
- ・ 三鷹都市計画道路 3・4・11 が、車の交通量が少なく静かな地域を通ること、その地域の住環境が大きく変わるのではないかと心配している。吉祥寺通りを外環計画地を利用して迂回させる工夫を検討してほしい。
- ・ この地域には向う三軒両隣のような近所づきあいがある。かつて甲州街道(国道 20 号)沿いでも近所づきあいがあったが、道路拡幅後は、横断する機会が少なくなり、別の町のようになってしまった。今後、都市計画道路が計画されている地域では近所づきあいが失われてしまうのではないかと心配である。横断歩道や信号を多めに配置することや、地下の横断道路を整備するなど、横断しやすくして、人の行き来や近所づきあいがなくならないようにすることが重要である。
- ・ 吉祥寺通りは、この地域のメインストリートであり、バス路線にもなっている。この道路が分断されるのが心配である。今までどおり利用できるように、外環の計画地を利用して、迂回させる工夫を検討し、残るようにしてほしい。

安全・安心

- ・桐朋学園の隣地で大規模商業施設を着工するにあたり、工事業者と事前協議し、4 トン以上の大型車の通行路や通行時間などを取り決めたが工事が始まると、99%守られていない。朝 6 時くらいから 10 トン、20 トン車が通り、沿道の人から報告の連絡が入るが、泣き寝入りの状態である。事前協議の取り決め内容が守られるように行政の指導や監視を徹底してほしい。

工事中

- ・工事現場を出入りする車両の交通安全対策が心配である。工事車両の交通計画を作成して、経路などの情報を提供することが重要である。
- ・外環の工事では、多くの工事車両が周辺地域に出入りし、生活道路に入り込むのではないかと心配している。工事中の交通安全対策として、三鷹都市計画道路 3・4・11 などのアクセス道路を外環工事に先立って整備して、工事車両が生活道路に入らないように規制してほしい。また、計画地周辺の住民に迷惑がかからないように、工事車両の通行ルートなどの交通計画を作成し、説明するなどの対策を、行政が指導してほしい。
- ・工事中の交通安全対策が心配である。三鷹には工事車両専用の出入り口がある。外環の工事の際にも、工事車両専用の出入口を中央自動車等に設置し、工事現場から地域に工事車両が流入しないようにしてはどうか。
- ・工事現場を出入りする車両の交通安全対策が心配である。工事車両の交通計画を作成して、経路などの情報を提供することが重要である。

計画検討の進め方

(2) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・周辺住民に対して先行事例の実績を示すことや、水脈や地下水の状態を、更に詳しく調べて、地下水流動保全工法の信頼性を高める。〔調査段階〕
- ・開削部の工事過程で出る土砂を工事現場から出さないように検討することで、工事現場を出入りする土砂運搬の車両を少なくする。〔工事段階〕
- ・ドームカバーの設置など掘割部の排出ガスの漏れ出しや工事中の騒音や振動、砂埃を防ぐ対策を検討する。〔計画・工事段階〕

環境

- ・地下水流動保全工法は、比較的新しい技術であり、本当に効果が期待できるかわからない。採用した実績があれば、その効果の程度を示すことにより、住民の不安を解消することができる。
- ・中央 JCT の掘割部から排出ガスが漏れ出して、大気が汚染されることが心配である。工事中も含めて、掘割部から排出ガスが漏れ出さないように、ドームカバーを設置するなどの検討をしてほしい。
- ・「環境影響評価のあらまし」で、地下水を遮断しない対策として「地下水流動保全工法」が紹介されているが、通水部を設けても、地域全体の水脈の流れが乱れるのではないかと心配である。この地域の水脈や地下水の状態を、更に詳しく調べてほしい。

工事中

- ・開削工事を行う場所では、掘り出した土砂を、いったん外に出し、再度埋め戻すことになる。その土砂が移動する過程を計画地内でやりくりするために、工期を区分し、土砂を運搬する車両が工事現場から出入りしないようにすることが重要である。
- ・中央 JCT の掘割部から排出ガスが漏れ出して、大気が汚染されることが心配である。工事中も含めて、掘割部から排出ガスが漏れ出さないように、ドームカバーを設置するなどの検討をしてほしい。
- ・工事中の騒音や振動、砂埃が心配である。相生町で採用されたドームカバーの設置など検討してほしい。

(3) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・換気所の性能評価基準に、世界的な環境基準である PM2.5 を追加採用する。〔調査段階〕
- ・換気所からの排出ガス濃度や風向きなどを電光掲示板やインターネットで公開する。〔管理段階〕

環境

・換気所からの排出ガスの影響は、基準値以下だと予測されているが、大気質については周辺住民にとって関心が高いことであり、本当にそのとおりなのかと疑心暗鬼で暮らしたくない。換気所から現在どれくらいの濃度が排出されているのかを電光掲示板などで風向きなどを含めて示して、不安を解消してほしい。インターネットでも公開してほしい。

・換気所の性能の基準に、世界的な環境基準の PM2.5 を採用していないことが心配である。環境影響評価で PM2.5 の基準を追加採用して、換気所の性能評価に取り入れることが重要である。

計画検討の進め方

・換気所からの排出ガスの影響は、基準値以下だと予測されているが、大気質については周辺住民にとって関心が高いことであり、本当にそのとおりなのかと疑心暗鬼で暮らしたくない。換気所から現在どれくらいの濃度が排出されているのかを電光掲示板などで風向きなどを含めて示して、不安を解消してほしい。インターネットでも公開してほしい。

(4) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・適度な照明や監視カメラの設置に加え、有人の施設を配置して、人が行き交い、人の目が行き届いた安全な空間にする。〔計画段階〕
- ・調布市、三鷹市、世田谷区の境界を取り払い、周辺住民や自治会の誰もが利用でき、交流やにぎわいが生まれる空間にする。〔計画段階〕

まちづくり

・公共施設は居住地のある市民や区民向けの施設となることが多いが、調布市、三鷹市、世田谷区の3市区にまたがる地域であるため、市区の境界を取り払い、周辺の自治会の集りを始めとして、3市区民が共同で利用できるスポーツ施設、文化施設をつくり、地域のにぎわいづくりに役立てることが重要である。人の流れも生まれて、防犯面でも効果が期待できる。

安全・安心

・環境施設帯は無人の広大なオープンスペースになる可能性があり、安全や治安が心配である。照明や監視カメラを設置することも考えられるが、照明が明るすぎると環境施設帯の近隣住民は困るかもしれない。照明や監視カメラの設置も必要であるが、店舗や道路事務所など有人の施設などを配置して、自然な人の流れが途切れずに、人の目が行き届くようにすることが重要である。道路事務所の職員など残業している人がいれば、遅くまで目が行き届くことになる。

・公共施設は居住地のある市民や区民向けの施設となることが多いが、調布市、三鷹市、世田谷区の3市区にまたがる地域であるため、市区の境界を取り払い、周辺の自治会の集りを始めとして、3市区民が共同で利用できるスポーツ施設、文化施設をつくり、地域のにぎわいづくりに役立てることが重要である。人の流れも生まれて、防犯面でも効果が期待できる。

(5) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・住民に対して、他の工事が完了した場所での開通後の測定値と予測値の比較などを紹介することで、環境影響評価の予測値の信頼性を高める。〔調査段階〕
- ・検討会の意向を踏まえて、環境影響などに関するより詳しい追加調査や検討を実施するとともに、その結果を伝わりやすい方法で公開する。〔調査段階〕
- ・自治会などを通して、外環全体や周辺のアクセス道路の整備などに関するこれまでの取組みや整備の進捗状況、今後の見通しなどの情報を提供する。〔調査段階〕
- ・定点観測を行うことで、予測値の正確性を検証する。〔管理段階〕

計画検討の進め方

- ・環境影響評価で大気質の予測データが示されているが、どの程度信頼できるものかわからない。他の高速道路などの工事が完了した場所を例にして、予測値と実際の測定値を示して、住民を安心させることが重要である。
 - ・大気質や騒音・振動、地下水など環境全般について、予測しておくことも必要だが、外環開通後の実際の測定値が、予測値どおりになるかわからない。月に1回や季節ごとなど、科学的に妥当である頻度で定期的にモニタリングをすることが重要である。
 - ・今回の検討会で質問や提案しても、追加で調査が行われるか不安だし、調査したとしてもその結果が公開されるか心配である。誰も行かないような役所の片隅の窓口に資料が置いてあるという状態ではなく、住民に伝わるように公開することが重要である。
 - ・「環境影響評価のあらまし」で、地下水を遮断しない対策として「地下水流動保全工法」が紹介されているが、通水部を設けても、地域全体の水脈の流れが乱れるのではないかと心配である。この地域の水脈や地下水の状態を、更に詳しく調べてほしい。
- ・外環全体や周辺のアクセス道路の整備などに関するこれまでの取組みや整備の進捗状況、今後の見通しなどの情報がわからないことが心配である。自治会などを通して、外環の整備などに関する情報の提供や説明会を行ってほしい。

(6) 三日月地域

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・生活道路の分断や通過交通、まちづくり用地の将来利用など、具体的な課題に対して、行政の対応方針を示す。〔調査段階〕
- ・仙川の上部空間の利用などによる工事中の地域分断の解消や、工事車両の振動対策を検討する。〔工事段階〕

まちづくり

- ・三日月地域では、計画地周辺で先行的に買収された土地が更地になり「まちづくり用地」という看板が出ている。空き地が増えるたびに、その看板を目にするとまちから追い出されているようで気分が悪いとのことだ。まちづくり用地が何に使われるのか具体的に書いてほしい。

安全・安心

- ・三日月地域は閑静な住宅地であるが、抜け道として利用するために流入する車が多い。交通安全のために、一方通行などの規制をしてはどうか。一方で、一方通行にすると、スピードを出す車が増えるのではないかな。

工事中

- ・三日月地域への生活道路が、工事中も含めて分断されるのが心配である。工事期間中は、仙川に張り出して仮設の歩道を設置して、仙川沿いの歩道を広げて通行できるようにすることが重要である。
- ・三日月地域の住民は生活道路などが分断されることなどについて心配していると思う。工事中や完成後の生活道路の計画を早く確定し、住民に知らせ住民の不安を軽減・解消することが重要である。
- ・近所に舗装が傷んでいる道路があり、大型車が通ると家が揺れてしまう。工事車両が通るようになると、頻繁に振動するのではないかと心配である。工事前に、道路の舗装を直してほしい。

計画検討の進め方

- ・三日月地域では、計画地周辺で先行的に買収された土地が更地になり「まちづくり用地」という看板が出ている。空き地が増えるたびに、その看板を目にするとまちから追い出されているようで気分が悪いとのことだ。まちづくり用地が何に使われるのか具体的に書いてほしい。
- ・三日月地域の住民は生活道路などが分断されることなどについて心配していると思う。工事中や完成後の生活道路の計画を早く確定し、住民に知らせ住民の不安を軽減・解消することが重要である。

(7) トンネル部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・外環本線の換気計画でどこから清浄空気を送り込み、どの範囲の汚れた空気を導くことができるかなど、トンネル内の総合的な気流のことを示した詳しい評価を示す。〔計画段階〕

環境

- ・どこから清浄空気を送り込み、どの範囲の汚れた空気を導くことができるかなど、トンネル内の総合的な気流のことを示した詳しい評価を知りたい。他地区の稼働実績などの具体的な例とも照らし合わせて、より効果的な対策を検討してほしい。